

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	言語と文化		
英文授業科目名	Language and Culture		
開講年度	2004年度	開講年次	3, 4年次
開講学期	6, 8学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-総合講義		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	湯川 敬弘		
居室	東1-607		

公開E-Mail	授業関連Webページ
t-yukawa@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>(a) 主題：言語は文化を構成するものの中でもっとも文化の特性を規定しているものである。例えば日本人の思考は日本文化、特に日本語によって規定されているが、それは日本語以外の言語とその文化の特性とを比較して初めて分かる。そうした観点から、言語と文化の関係、各代表的な言語とその文化の特性等を比較考察する。</p> <p>(b) 達成目標：日本語、日本文化の特性の自覚。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
特にないが、習った第二外国語の記憶を新たにしておくこと。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
<p>教科書：「日本語が見えると英語も見える」（荒木博之、中公新書）</p> <p>参考書：「ことばと文化」（鈴木孝夫、岩波新書）「日本語に主語はいらない」（金谷武洋、講談社）「比較日本語論」（柳父章、日本翻訳家養成センター）等</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容

授業は大きく次の5つのテーマで講ずるが、前半の時間を使って概論し、後半は特に教科書を使って、概論の復習を兼ねつつ、4と5について講ずる。

- 1 言語と文化についての考え方
- 2 言語と思考との関係についての諸説
- 3 中国語と中国文化
- 4 英語などインドヨーロッパ語族の言語とその文化の特性
- 5 日本語と日本文化

(b) 授業の進め方：

本来は講義であるが、単に講義するだけでなく、諸君に区切りごとに適宜課題を与え、それを提出させる。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

課題提出 50% 期末試験（レポート提出にすることもあり） 50%

(b) 評価基準：

すべての課題が受理されていること。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、メールで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

国際人であるためには、まず自文化について深い理解をもち、その上で他国の文化に偏見のない視点をもつことが重要。

【その他】